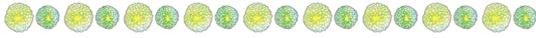


RIKKYO UNIVERSITY
VOLUNTEER CENTER MAIL MAGAZINE

2024.6.3



みなさん、こんにちは。

ボランティアコーディネーターの齋藤です。

2024 年度を迎えたばかりの気でしたが、あっという間に2ヶ月が過ぎていたのですね。驚きです。とても濃かったこの 4・5 月は、多くの学生とボラセンで出会い、そこでのボランティア相談を通して一人ひとりの想いに触れることができたのですが、みなさんは”ボランティア(活動)”について深く考えてみたことはありますか？

この2ヶ月は、学内で行われる講義にゲストスピーカーとして呼んでいただくことも多く、ボラセンで開講している全カリ科目「ボランティア論」をはじめ、同じく全カリ科目の「SDGs×AI×経済×法」、RSL 科目「大学生の学び・社会で学ぶこと」、スポーツウエルネス学部「基礎演習」、異文化コミュニケーション学部「国内フィールドスタディ」に関わらせていただきました。

履修者を合計すると 1000 人以上！ボラセンに来室する学生の多くはボランティアに関心のある学生ですが、講義となると必ずしもボランティアに関心のある学生ばかりではありません。

それ故に、リアクションペーパーを通して、私とは異なる価値観に触れたり、新鮮な視点に刺激を受けたり、興味深い意見に刺激を受けたりしながら、ボランティアの奥深さを改めて実感することができました。

立教ボラセンの取り組みの中でも特に人気を集めている「立教チームで活動する 1day ボランティア」もいくつかのプログラムで活動がスタートしています。実際にフィールドに出て活動してみるとうまくいくことばかりではなく、いかないことも多いのですが、多様な人とつながり、試行錯誤しながら共にその場を創っていく時間はとてもおもしろいです。

一方で、フィールドによってボランティアへの考え方も異なり、ボランティアに求められていることも違うので、その都度「ボランティアならではのかかわりってなんだろう？」と学生と一緒に考えています。

「ボランティア活動＝善いこと」と一面的に考えるのもいいかもしれませんが、あーだこーだ言いながら「ボランティアって何？」という問いに頭を悩ませたり、とりあえず現場に出て社会課題に直接触れながらそこで湧き出る感情を誰かと共有したりするのもけっこうおもしろいです。

「誰かに話したいな〜」「今まで誰にも言えなかったけれど…」「今更だけど…」といったボランティアに関する考えを語るもよし、自分に合った活動を探してみるもよし、一緒に活動する仲間を探すのもよし、みなさんの活動をサポートするのがボラセンですので、ボランティア未経験者も、初心者も、経験者も

ぜひボラセンをご活用ください。

みなさんとお話できることを楽しみにしています！

池袋キャンパス ボランティアコーディネーター

齋藤 元気

各コンテンツの詳細は、ボランティアセンター公式【note】からご覧ください！

https://note.com/rikkyo_volunteer/n/nc1b1095a66b9

****** 今月の CONTENTS ******

■ボラセンからのお知らせ

- 【1】海外ボランティアの募集团体が立教大学に集結！団体スタッフに学内で直接相談できる「海外ボランティアフェア」を開催します！！（対象：立教生）
- 【2】伝統の立教キャンプ！「農業体験 in 山形県高畠町」の募集説明会を開催します！
- 【3】(再掲)＊補助枠 残り 12 名分＊「ボランティアコーディネーション力3級検定費用の補助」を今年も実施します！
- 【4】貸し出し開始図書の紹介！

■ボラセン活動レポート

- 【1】立教チームのボランティアが、東京都障害者スポーツ大会の「水泳競技」の運営をサポートしました！

■ボランティア関連情報

＊ボランティア募集情報(学内団体)＊

- 【1】活動体験会を開催！
- 【2】「ゆるもやおしゃべり！」の参加者・運営メンバーを募集中！

＊ボランティア募集情報(学外団体)＊

- 【1】「第5回 LOVE OCEAN #街からの LOVE OCEAN 大作戦 in 池袋」参加者大募集！！

■RSL センターからのお知らせ

- 【1】秋学期開講科目の説明会を開催します！

■陸前高田サテライト事務局からのお知らせ

- 【1】陸前高田サテライト援助金制度を利用して、陸前高田グローバルキャンパスに行ってみよう！

■□■ 巻末コラム ■□■

ボランティアセンターの副センター長の結城です。僕は、全カリ科目『ボランティア論』のコーディネーター教員も担当しています。

最近、学生たちと関わりながら思うこととして、「新聞」を読まない学生が多いことを危惧しています。インターネットの情報は、自分が検索した内容に類似する情報が大量に寄ってくるようになっていきますよね。そのため、うっかりすると自分の興味関心のある範囲だけの情報で埋め尽くされてしまうように感じています。つまり、思いがけない意外な情報による新しい発見や知見に乏しくなるような気がしています。

ボランティア活動というのは、自分にとって未知なことに向き合うという「予期せぬ出来事を経験すること」の中にその醍醐味があるのだと思います。その意味でも、知らない世界へ、一歩踏み出す勇氣が必要なのだと思います。

まさに、寺山修司の名言「書を捨てよ、町へ出よう」を真似て、僕は「スマホを置いて、見知らぬ街に出てみませんか」という言葉をキャンパスを行き交う学生たちを眺めながら届けたくくなりました。

結城 俊哉

(ボランティアセンター副センター長／コミュニティ福祉学部 特別専任教授)

立教大学ボランティアセンター

池袋キャンパス(5号館1階)・新座キャンパス(7号館2階)

開室時間:月～金 9:00～17:00

▼ボラセン Web ページ

http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/extracurricular_activities/volunteer.html

▼メールアドレス

volunteer@rikkyo.ac.jp

▼X(@rikkyo_volucen)

http://twitter.com/rikkyo_volucen/

▼Instagram

https://www.instagram.com/rikkyo_vc/?hl=ja

配信停止を希望の場合は以下の Google Form を送信してください

<https://forms.gle/PRuubMtYvuHVfKoG8>

(C)2019 RVC all rights reserved.
